

20年度中間決算 決算説明資料

2020年10月
株式会社タダノ

Tadano Ltd.

<注意事項>

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。
- 需要、シェアの取り扱いについて：需要台数は当社推計にて10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入しております。また、需要にはロシア国産、中国国産の中国市場向けは含んでおりません。
- 資料内の略称について：TCはトラッククレーン、RTはラフテレーンクレーン、ATはオールテレーンクレーンを表します。
- 2019年7月31日にDemag事業の買収が完了いたしました。本資料における19年度Demag事業の取り扱いは以下の通りです。
 - ・19年度連結財務諸表：貸借対照表（12月末）、損益計算書（8～12月）を含んでおります。
 - ※PPAによる影響を加味し遡及修正しております。PPAは、Purchase Price Allocationの略で、資産・負債を公正価値評価/配分する手続きです。
 - ・需要数値：クローラクレーンは含んでおりません。
 - ・シェア：Demag製品は1～12月販売台数を含んでおります。

- ✓ Demag事業連結により売上は約9%減に留まるも、製品構成の変化により、利益は大幅減少。10年度中間期以来10年ぶりの営業損失。

(単位：百万円)

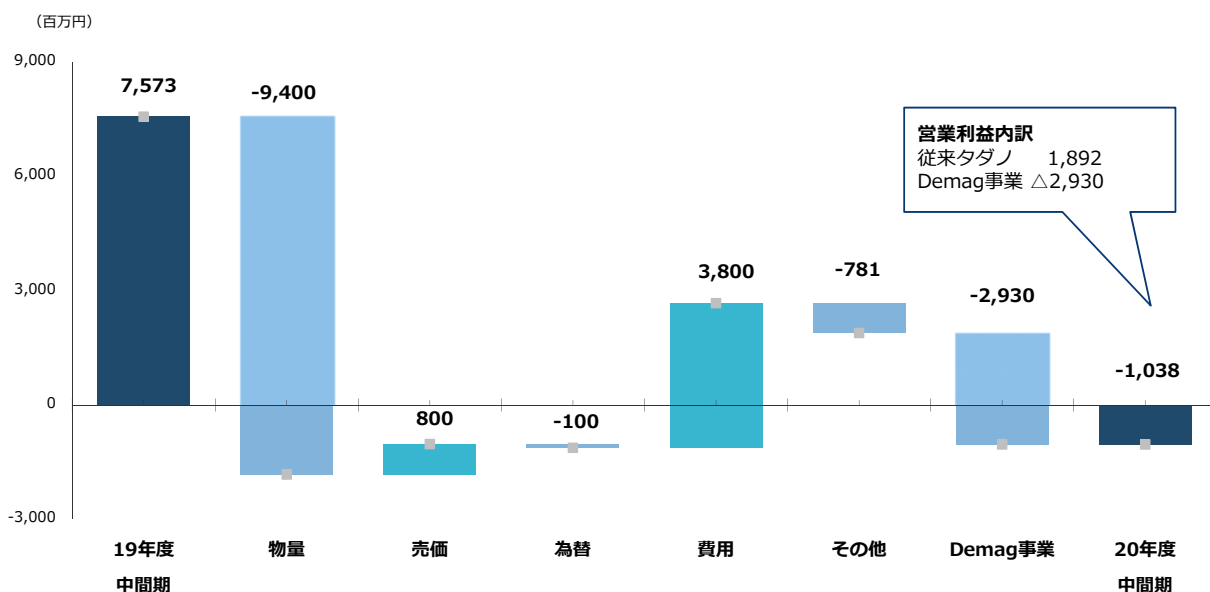
	19年度中間期		20年度中間期		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	100,304	100%	91,106	100%	-9.2%
営業利益	7,573	7.6%	-1,038	-1.1%	-
経常利益	7,262	7.2%	-1,590	-1.7%	-
親会社株主当期純利益	5,267	5.3%	-2,566	-2.8%	-
設備投資額		9,852		3,242	
減価償却費		1,588		2,457	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		110.05円		108.27円	
EUR		124.32円		119.30円	

- ✓ Demag製品を中心とした構成の変化等により原価率は悪化
- ✓ 経費削減に努めるも、Demag事業連結により販管費は増加

(単位：百万円)

	19年度中間期		20年度中間期		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	100,304	100%	91,106	100%	-9,198
売上原価	74,195	74.0%	72,805	79.9%	-1,390
割賦販売利益	-56	-0.1%	32	0.0%	89
売上総利益	26,051	26.0%	18,332	20.1%	-7,718
販管費	18,478	18.4%	19,370	21.3%	892
営業利益	7,573	7.6%	-1,038	-1.1%	-8,611
営業外損益	-310	-0.3%	-552	-0.6%	-241
経常利益	7,262	7.2%	-1,590	-1.7%	-8,853
特別損益	679	0.7%	85	0.1%	-594
税引前当期純利益	7,942	7.9%	-1,504	-1.7%	-9,447
法人税等	2,684	2.7%	1,051	1.2%	-1,633
非支配株主当期純利益	-9	-0.0%	10	0.0%	19
親会社株主当期純利益	5,267	5.3%	-2,566	-2.8%	-7,834

✓ 費用は削減するも、物量の減少、Demag事業連結により86億円減少



貸借対照表

✓ 売上債権は減少

✓ たな卸資産は増加 (1,026億円のうち、TFG170億円、TDG266億円)

(単位：百万円)

	19年度末	20年度 中間期末	比較 増減		19年度末	20年度 中間期末	比較 増減
手許資金	57,075	73,051	15,975	仕入債務	40,745	24,822	-15,923
売上債権	63,267	44,257	-19,009	有利子負債	63,035	85,627	22,591
たな卸資産	97,434	102,619	5,185	その他	49,320	44,393	-4,926
その他	9,415	4,239	-5,175	負債計	153,102	154,843	1,741
流動資産計	227,192	224,168	-3,024	純資産計	158,158	152,897	-5,260
有形固定資産	68,433	68,534	100	負債・純資産計	311,260	307,741	-3,519
無形固定資産	1,675	1,647	-27				
投資その他の資産	13,958	13,390	-568		19年度 中間期	19年度	20年度 中間期
固定資産計	84,067	83,573	-494	売上債権回転期間	83.2日	88.1日	88.9日
資産合計	311,260	307,741	-3,519	たな卸資産回転期間	125.1日	135.6日	206.1日
				自己資本比率	48.8%	50.5%	49.3%

✓ 有利子負債の増加に伴う財務CFの増加により、現金及び現金同等物は増加

(単位：百万円)

		19年度 中間期	20年度 中間期	比較 増減
営業CF	税引き前利益	7,942	-1,504	-9,447
	減価償却費	1,588	2,457	868
	売上債権増減	5,521	18,382	12,860
	たな卸資産増減	-6,972	-6,287	685
	仕入債務増減	-2,939	-15,244	-12,305
	その他	-3,365	428	3,794
	合計	1,775	-1,769	-3,544
投資CF	合計	-24,451	-2,010	22,441
財務CF	合計	34,911	20,294	-14,617
現金及び現金同等物の増減額		11,602	15,973	4,371

製品別売上高

✓ その他を除き、全製品セグメントにて減少

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	64,199	55,106	-9,092	-14.2%
車両搭載型クレーン	11,265	9,099	-2,165	-19.2%
高所作業車	9,507	8,493	-1,014	-10.7%
その他	15,332	18,406	3,074	20.1%
合計	100,304	91,106	-9,198	-9.2%

建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

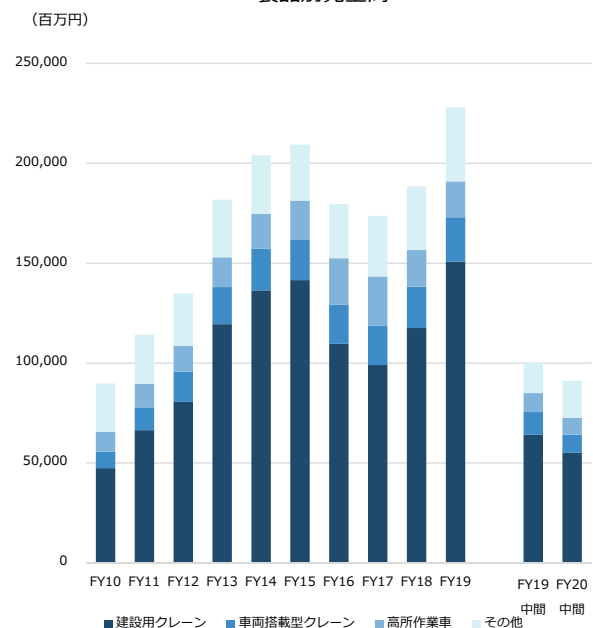
日本	24,984	18,122	-6,862	-27.5%
海外	39,214	36,984	-2,230	-5.7%
合計	64,199	55,106	-9,092	-14.2%

為替レート

※1-6月期中平均レート（海外子会社は12月決算のため）

USD	110.05	108.27
EUR	124.32	119.30

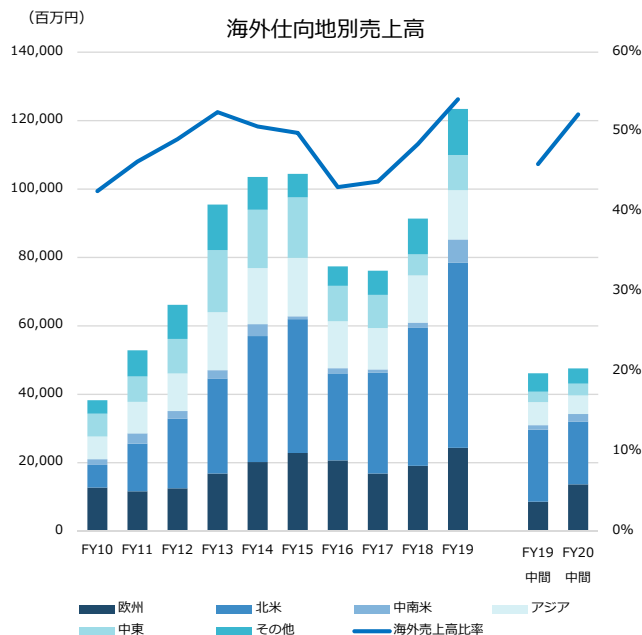
製品別売上高



✓ Demag事業連結により欧州を中心に海外売上高は増加

(単位：百万円)

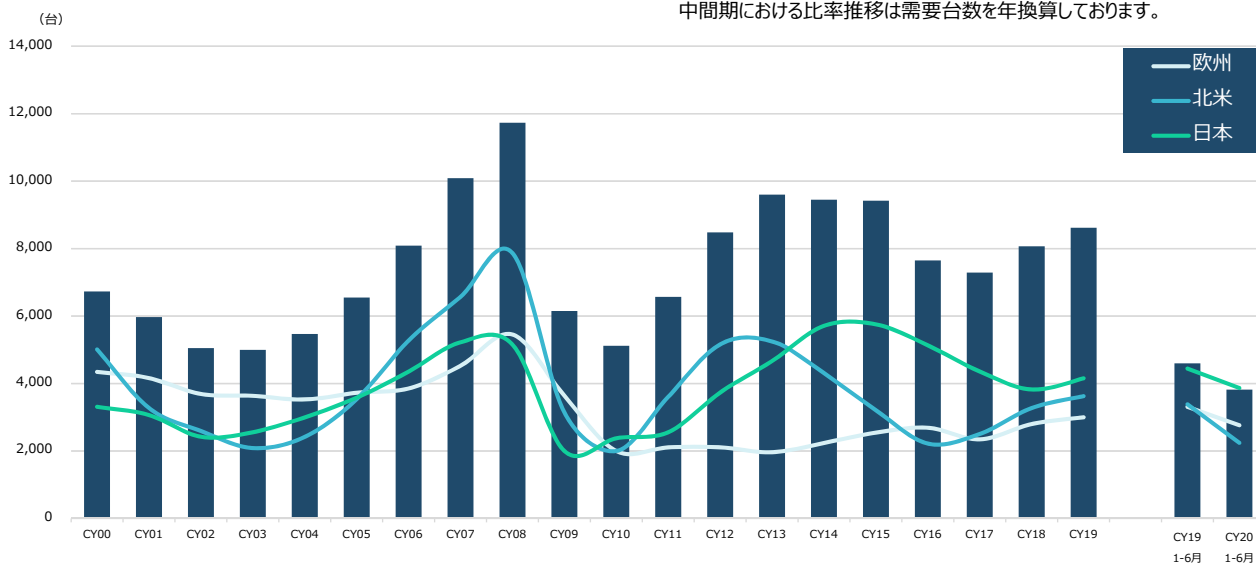
	19年度	20年度	比較増減	
	中間期	中間期	金額	増減率
欧州	8,627	13,675	5,047	58.5%
北米	21,043	18,385	-2,657	-12.6%
中南米	1,317	2,185	868	65.9%
アジア	6,729	5,421	-1,307	-19.4%
中東	3,064	3,445	380	12.4%
その他	5,377	4,475	-902	-16.8%
小計(海外計)	46,159	47,588	1,428	3.1%
日本	54,144	43,517	-10,626	-19.6%
合計	100,304	91,106	-9,198	-9.2%
海外売上高比率	46.0%	52.2%		



建設用クレーンの世界需要推移 (暦年ベース)

折れ線は各市場の需要ボトムの基準年を1とし、各年の比率推移を表します。
(基準年 北米・欧州：2010年、日本：2009年)

中間期における比率推移は需要台数を年換算しております。



※数値は当社推計 (10台単位にて四捨五入)

※ロシア国産は上記に含まず

※CY10以降、中国国産の輸出含む

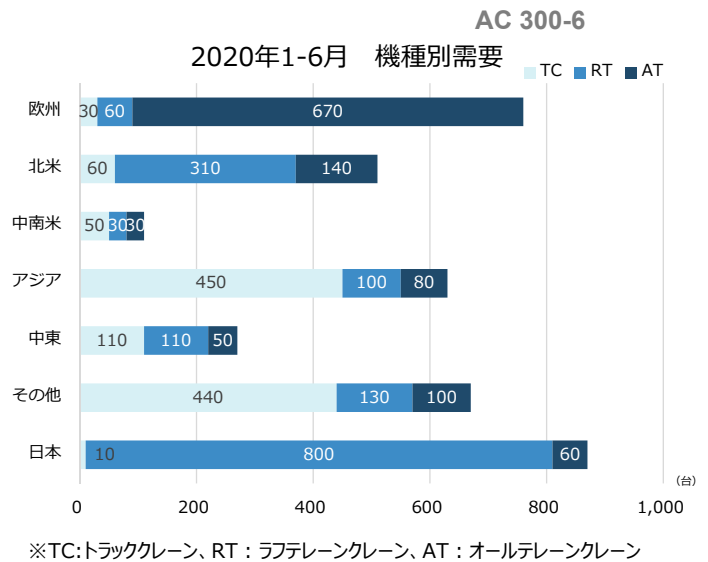
※中国国産の中国市場向けは上記に含まず。中国市場における中国国産の需要推移は次の通り

CY12：約2万2千台、CY13：約1万7千台、CY14：約1万4千台、CY15：約9千台、CY16：約9千台、CY17：約2万台、CY18：約3万2千台、CY19：約4万2千台

- ✓ 需要は全ての地域で減少し合計は17%減少
- ✓ 世界シェア2%ポイント減少 27%→25%



	需要			シェア	
	2019年 1-6月	2020年 1-6月	増減率	2019年 1-6月	2020年 1-6月
欧州	910台	760台	-16.5%	19%	13%
北米	770台	510台	-33.8%	32%	34%
中南米	150台	110台	-26.7%	18%	17%
アジア	720台	630台	-12.5%	14%	11%
中東	340台	270台	-20.6%	21%	24%
その他	710台	670台	-5.6%	14%	8%
海外計	3,600台	2,950台	-18.1%		
日本	1,000台	870台	-13.0%	54%	55%
合計	4,600台	3,820台	-17.0%	27%	25%



日本市場

- ✓ 台数シェア 53%→53%
- ✓ トン数シェア1%ポイント減少 56%→55%

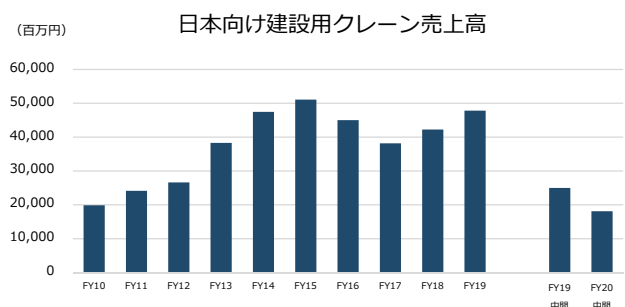
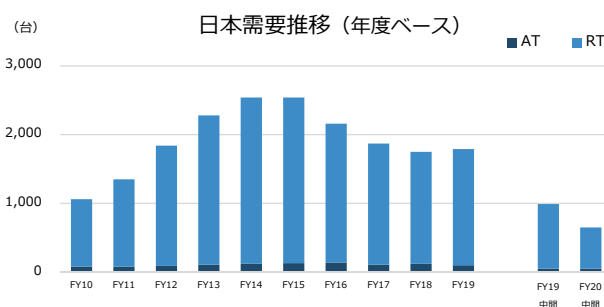
※上記シェアは年度ベース

(単位: 百万円)

	19年度	20年度	比較増減	
	中間期	中間期	金額	増減率
日本	24,984	18,122	-6,862	-27.5%



GR-1000N



※ AT: オールテレーンクレーン、RT: ラフテレーンクレーン

- ✓ Demag事業連結により売上増加
- ✓ シェア6%ポイント減少 19%→13%

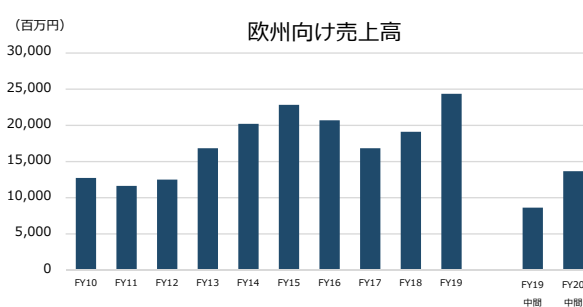
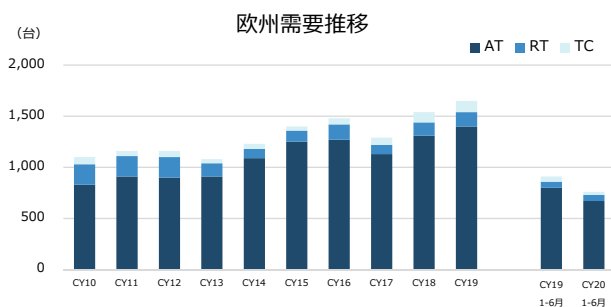
(単位：百万円)

	2019年度 中間期	2020年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
欧州	8,627	13,675	5,047	58.5%

※建設用クレーン以外も含む



CC 3800-1



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

- ✓ 需要は大幅減少
- ✓ シェア2%ポイント増加 32%→34%

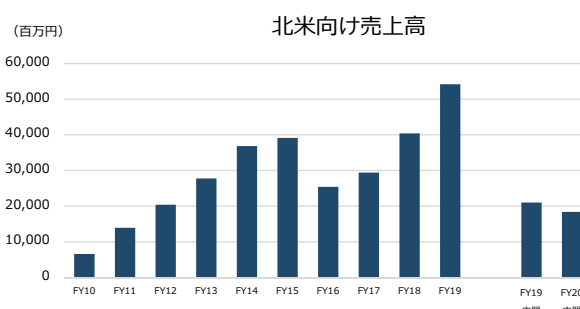
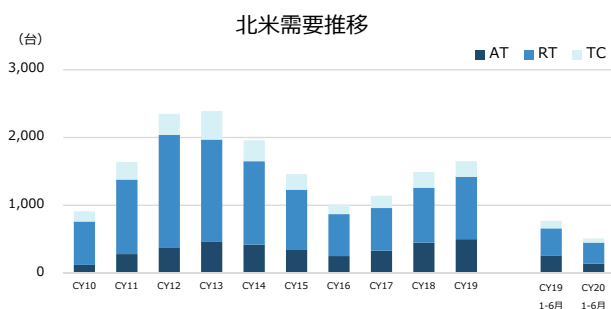
(単位：百万円)

	2019年度 中間期	2020年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
北米	21,043	18,385	-2,657	-12.6%

※建設用クレーン以外も含む



GR-1000XLL-4



※ AT：オールテレーンクレーン、RT：ラフテレーンクレーン、TC:トラッククレーン

- ✓ 売上高は中南米、中東増加も、全体としては減少
- ✓ 中東はシェア3%ポイント増加 21%→24%

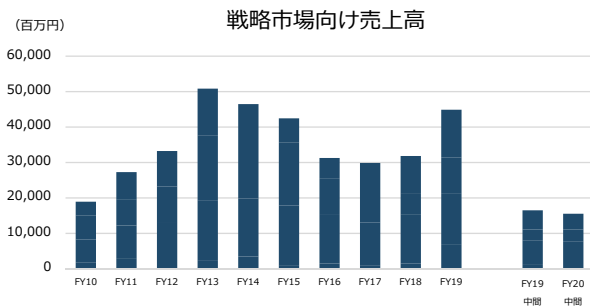
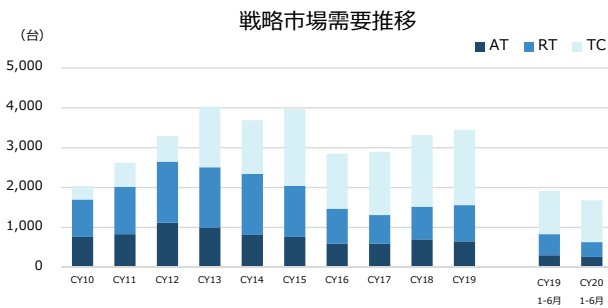
(単位：百万円)

	2019年度	2020年度	比較増減	
	中間期	中間期	金額	増減率
中南米	1,317	2,185	868	65.9%
アジア	6,729	5,421	-1,307	-19.4%
中東	3,064	3,445	380	12.4%
その他	5,377	4,475	-902	-16.8%
合計	16,489	15,527	-961	-5.8%



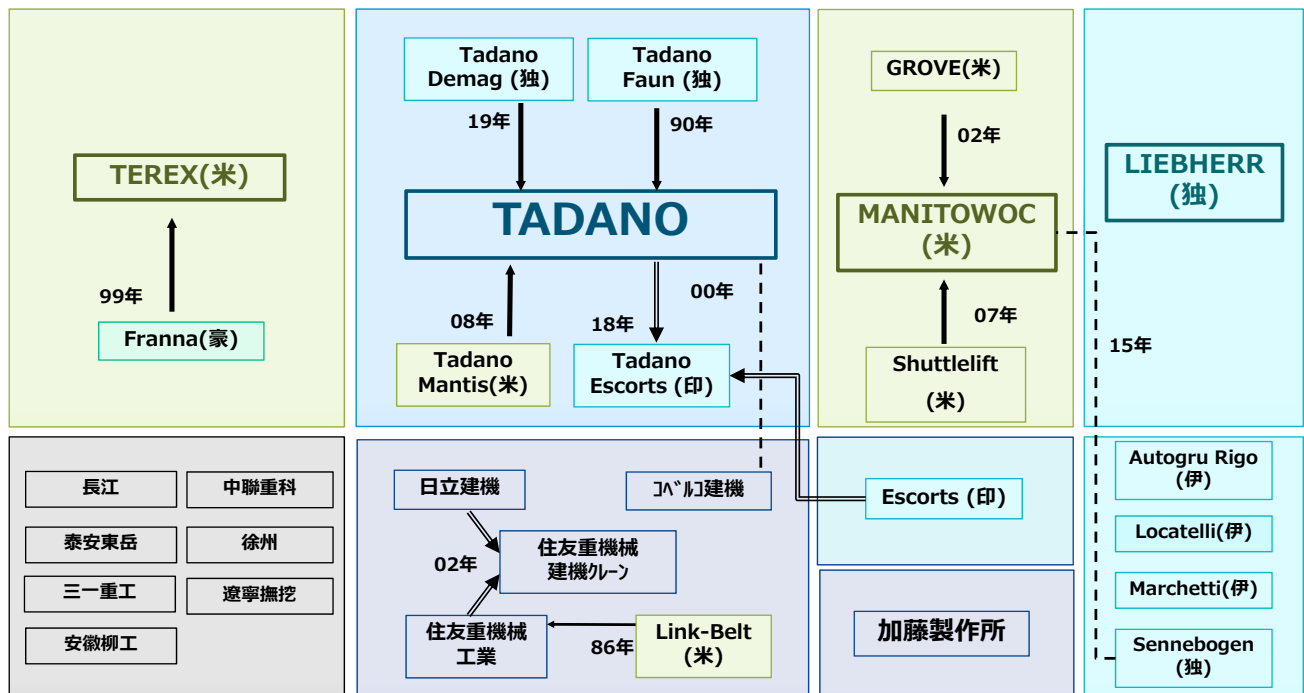
GT-600EL

※建設用クレーン以外も含む



※ AT : オールテレーンクレーン、RT : ラフテレーンクレーン、TC : トラッククレーン ※ 戦略市場は日本・欧州・北米を除いた当社独自の市場区分

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)



徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group、中聯重科 =Zoomlion、三一重工=Sany、安徽柳工=Liugong

*日本建設機械工業会資料より、当社作成

→ 買収を示す。(数値はその年度)

- - - 提携を示す。(数値はその年度)

==> 出資・JVを示す。

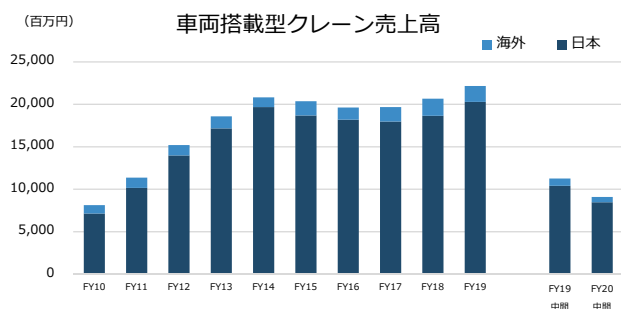
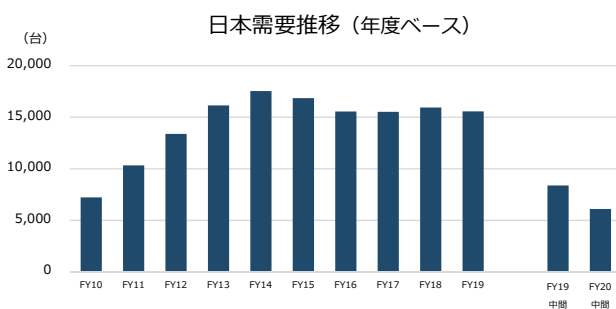
- ✓ 日本シェア 48%→48%
- ✓ 日本売上は、需要減少により前年同期比18.6%減少

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
日本	10,411	8,471	-1,940	-18.6%
海外	853	628	-225	-26.4%
合計	11,265	9,099	-2,165	-19.2%



ZX360/300シリーズ



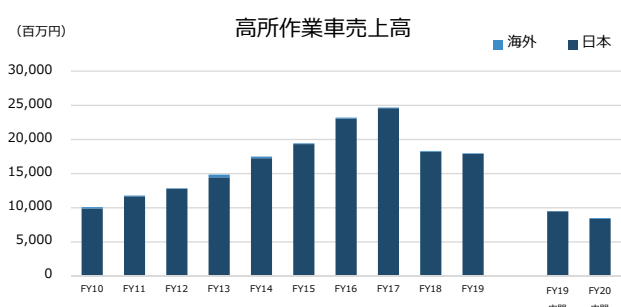
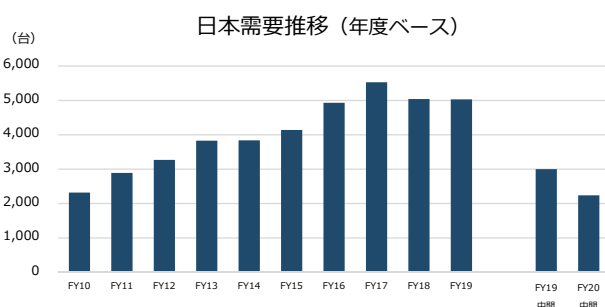
- ✓ 日本シェアは1%ポイント減少 35%→34%
- ✓ 日本売上は、レンタル業界向け需要の減少により前年同期比11.6%減少

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
日本	9,473	8,370	-1,102	-11.6%
海外	34	122	88	256.5%
合計	9,507	8,493	-1,014	-10.7%



AT-320XTG



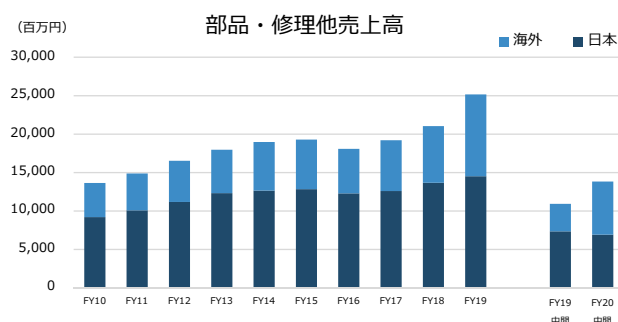
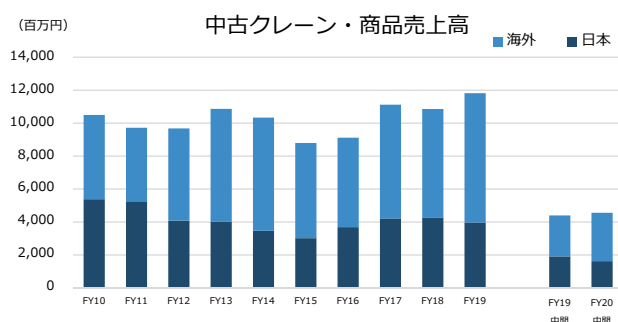
✓ 部品、修理、中古車等のその他売上は増加

(単位：百万円)

	19年度 中間期	20年度 中間期	比較増減	
			金額	増減率
中古クレーン 商品	4,399	4,561	161	3.7%
部品・修理他	10,932	13,844	2,912	26.6%
合計	15,332	18,406	3,074	20.1%



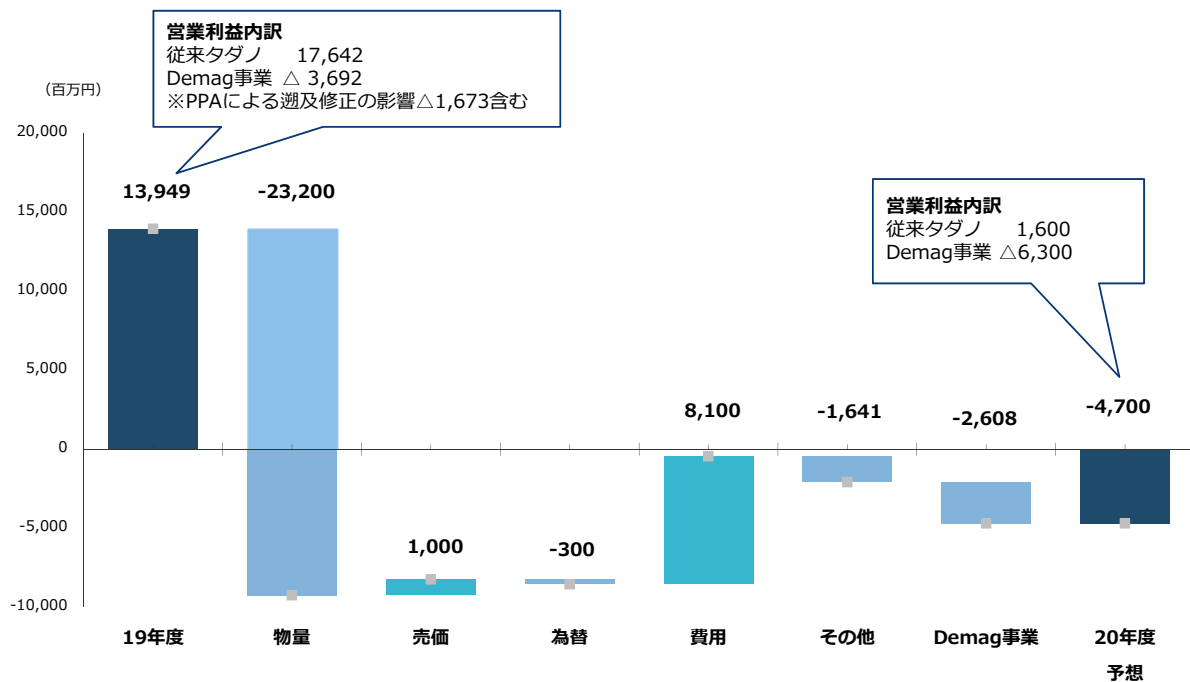
門型油圧リフター：TB-1000



(単位：百万円)

	19年度		20年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	227,949	100%	182,000	100%	-20.2%
営業利益	13,949	6.1%	-4,700	-2.6%	-
経常利益	13,791	6.1%	-6,200	-3.4%	-
親会社株主当期純利益	6,433	2.8%	-7,900	-4.3%	-
設備投資額		12,902		5,500	
減価償却費		4,527		4,800	
※設備投資にはリース資産分を含んでおります。					
USD		109.05円	下期	105.00円	
EUR		122.07円	下期	125.00円	
1株当たり配当金	中間	14.00円	中間	0.00円	
	期末	14.00円	期末	3.00円	
	年間	28.00円	年間	3.00円	

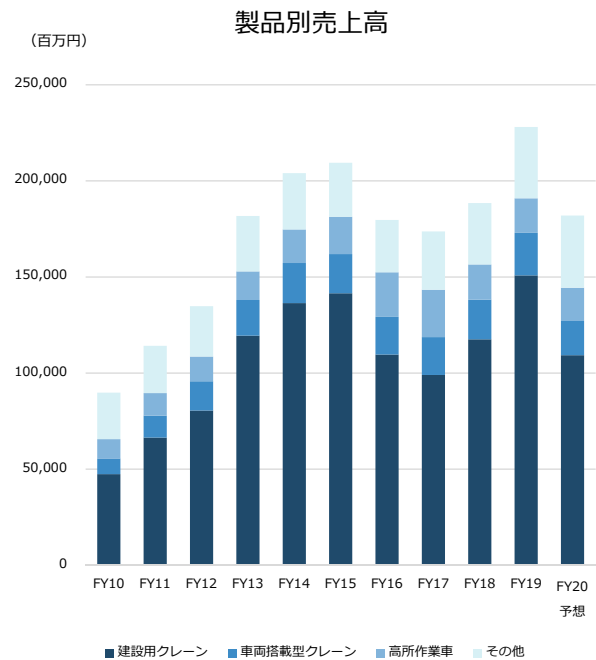
20年度業績予想（営業利益増減要因）



20年度製品別売上高予想

(単位：百万円)

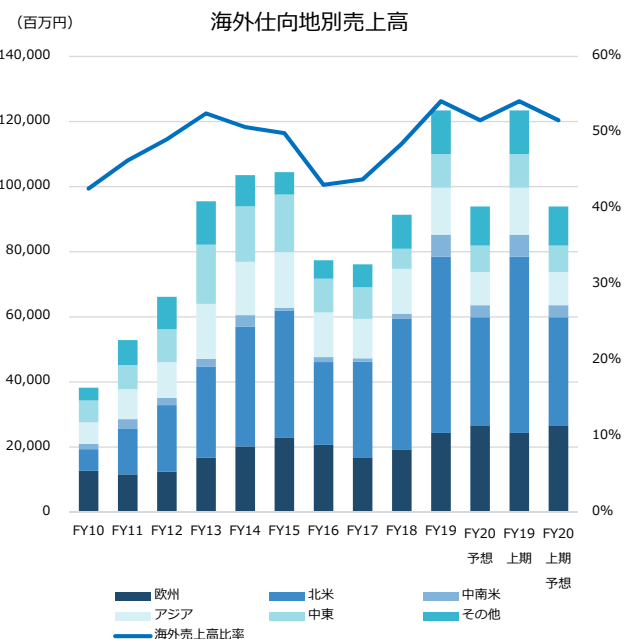
	19年度	20年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
建設用クレーン	150,818	109,300	-41,518	-27.5%
車両搭載型クレーン	22,162	17,800	-4,362	-19.7%
高所作業車	17,986	17,300	-686	-3.8%
その他	36,982	37,600	618	1.7%
合計	227,949	182,000	-45,949	-20.2%
建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高				
日本	47,833	37,800	-10,033	-21.0%
海外	102,984	71,500	-31,484	-30.6%
合計	150,818	109,300	-41,518	-27.5%



20年度仕向地別売上高予想

(単位：百万円)

	19年度	20年度 予想	比較増減	
			金額	増減率
欧州	24,363	26,700	2,337	9.6%
北米	54,163	33,200	-20,963	-38.7%
中南米	6,735	3,700	-3,035	-45.1%
アジア	14,401	10,200	-4,201	-29.2%
中東	10,312	8,100	-2,212	-21.5%
その他	13,444	12,000	-1,444	-10.7%
小計 (海外計)	123,421	93,900	-29,521	-23.9%
日本	104,527	88,100	-16,427	-15.7%
合計	227,949	182,000	-45,949	-20.2%
海外売上高比率	54.1%	51.6%		



※上のグラフには日本を含んでおりません。
※その他は、オセアニア、アフリカ、CISを含んでおります。

✓ 地域社会との協働による環境保全活動

タダノまなびの森が正式に発足。8月21日に香川県庁でフォレストマッチング推進事業による、香川県、さぬき市、タダノとのフォレストマッチング協働の森づくり共同宣言署名式を実施。

◆ タダノまなびの森とは

さぬき市の保有林の一部をタダノまなびの森とし、森林整備を通じて環境保全の大切さを感じてもらう教育の場や、森林整備に参加することで交流が生まれる場として、グループ社員有志と共に森林づくりに取り組む場とする。

◆ フォレストマッチングとは

県、市町が連携して森づくり活動に関心のある企業に森林を提供し、協働の森づくり活動を進めることで森林の働きを維持する活動。

ESG = 「Environment, Social, Governance」 (環境・社会・ガバナンス)
 SDGs = 「Sustainable Development Goals」 (国連にて全会一致で可決された地球環境や社会が将来的に持続可能であり続けるための17のゴール)



宣言署名板署名時の写真（人物左から）
 大山市長（さぬき市）、浜田知事（香川県）、
 多田野社長



さぬき市多和に発足した
 「タダノまなびの森」

✓ クリーンな作業環境の実現に向けて

Demag製品のE-PackがESTA 2020 Awardsを受賞。E-Packは電動油圧ポンプによるクレーン作業を実現し、排出ガスや騒音を削減することで、屋内や都市部、夜間の住宅地での作業において活躍する。

また、制御システムにより、作業に必要な電力のみを使用することで、従来のディーゼルエンジンに比べて、燃料コストの削減にも貢献する。今後はE-Packを他機種に対しても搭載していく予定。

◆ ESTA 2020 Awardsとは

移動式クレーン・運送業界などの企業が参加する欧州協会ESTAが、毎年それぞれの分野において表彰を行っている。E-Packは“Innovation manufacturer”の分野でESTA 2020 Awardsを受賞。



電動油圧ポンプユニットの
 「E-Pack」

✓ 2020年8月 最大吊上げ能力130t吊り性能クラス オールテレーンクレーン AC 130-5を日本市場向けに発売

- ・ブーム付きで公道走行が可能な最大クラスのオールテレーンクレーン
- ・日本の道路通行条件に適合していながら、クラス最長級のブームを搭載
- ・最新の過負荷防止装置「IC-1プラス」により、安全なクレーン作業をサポート
- ・キャリアとクレーン動力を兼ねたシングルエンジン方式により、メンテナンス時間や故障リスクを低減

吊上クラス (t)	型式	ブーム付き公道走行
140	ATF-140N-5.1	×
130	AC 130-5	○
120	ATF-120N-5.1	○
100	ATF-100G-4	○



✓ 2020年6月 タダノ初 1,600t 吊り大型 クローラクレーンCC 8800-1を日本へ納入

当社製品にクローラクレーンが加わり、橋梁工事などのインフラ整備や、大型風力発電の設置、さらにはプラントの建設など、幅広いニーズに対応が可能に。

Demag買収後初めて日本に納入されたCC 8800-1



Demagブランドのクローラクレーン
ラインナップ

最大吊り上げ荷重：1,600t
最大メインブーム長さ：156m
最大先端高さ：240m

吊上クラス (t)	型式
3,200	CC 8800-1 TWIN
1,600	CC 8800-1
1,250	CC 6800-1
650	CC 3800-1
600	CC 2800-2
400	CC 2400-1

CC 8800-1の作業例



コロナ禍影響と今後の見通し

28

コロナ禍影響（需要）

【地域別需要（対前年同期比）】

地 域	2020年			
	1月-3月	4月-6月	7月-9月	10月-12月
日 本	-7%	-24%	-39%	
中 東	-12%	-28%	-42%	
北 米	-16%	-47%	-47%	
欧 州	-9%	-23%	-7%	
中南米	-15%	-34%	-44%	
アジア	-1%	-26%	-43%	
その他	-16%	+5%	-22%	

第1四半期
 第2四半期
 第3四半期

29

【地域別の足許の状況】

地 域	足許の状況
日 本	クレーン稼働率は戻りつつあるものの、先行き不透明感から設備投資意欲の回復まで至っていない。
米 国	感染拡大は継続。大統領選後の今後の経済政策の見極めが必要なことから当面様子見続く。
欧 州	欧州第2波深刻、一部欧州諸国ではロックダウンもあり、クレーン需要への影響が懸念される。
アジア	各国の感染拡大防止措置が継続する中、当面市況好転は見込み難い状況。
その他	オーストラリア：経済対策としてのインフラプロジェクトもあり需要堅調。 中東：原油価格低迷継続により需要回復期待しづらい。